

第2回アルコール健康障害対策関係者会議

2014.12.12

中央合同庁舎第4号館

多量飲酒者対策

—飲酒量低減指導の効果、普及への課題—

独立行政法人国立病院機構

肥前精神医療センター

杠 岳文

「健康日本21」(第一次)

- ① 多量飲酒問題の早期発見と適切な対応
- ② 未成年者の飲酒防止
- ③ アルコールと健康についての知識の普及

「健康日本21」(第二次)

- ① 生活習慣のリスクを高める量を飲酒している者(1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者)の割合の低減
- ② 未成年者の飲酒をなくす
- ③ 妊娠中の飲酒をなくす

最新の推計値

アルコール使用障害等のわが国における出現頻度と推計数

分類	男性	女性	推計数 (男女計)
飲酒者<過去1年で1度でも飲酒した者>	82.4%	60.1%	7,428万人
リスクの高い飲酒者<1日平均40g(男性)または20g(女性)以上飲酒する者>	14.4%	5.7%	1,039万人
多量飲酒者<飲酒する日には60g以上飲む者>	15.6%	3.6%	980万人
AUDIT 8点以上	24.0%	3.5%	1,400万人
AUDIT 15点以上	5.1%	0.7%	294万人
AUDIT 20点以上	2.0%	0.2%	113万人
アルコール依存症(ICD-10)<生涯有病>	1.9%	0.3%	107万人
アルコール依存症(ICD-10)<現在有病>	1.0%	0.1%	58万人

WHO世界戦略を踏まえたアルコールの有害使用対策に関する総合的研究

平成25年度総括研究報告書

多量飲酒者に対する飲酒量低減技法

Brief Intervention

Screening and Brief Intervention

Screening, Brief Intervention, and Referral to Treatment

Brief Intervention開発の歴史

WHOの多国間共同研究事業としてのSBI

- ① **Phase I** (1982-87): プライマリーケアの現場でhazardous and harmful drinkerを検出する信頼性と有効性の高いスクリーニングテスト(AUDIT)の開発
- ② **Phase II** (1987-92): screening and brief intervention (SBI)の有効性を検証する多国間共同研究
- ③ **Phase III** (1993-99): 開業医(general medical practitioners)が日常診療でSBI実践の働きかけ
- ④ **Phase IV** (2000-07): プライマリーケア(primary health care)でのSBIの国レベルでの普及戦略

この後、ヨーロッパではPHEPA, INEBRIAが活動を引き継いでいる。

WHO Collaborative Project on Detection and Management of Alcohol-related Problems in Primary Health Care

Brief Intervention

Anderson P, Gual A, Colom J: Alcohol and primary health care: clinical guidelines on identification and brief interventions. Department of health of the government of Catalonia, Barcelona. (2005)

Brief Interventionの特徴は、

- ①断酒ではなく、飲酒量低減を目標にする。
- ②依存症の専門家ではなく、ヘルスケアの従事者によって行われる。
- ③依存症でない患者を対象とする。

Brief Intervention

ブリーフ・インターベンションに定訳はありませんが、「簡易介入」や「短時間介入」と訳され、特定保健指導では「減酒支援」と呼ばれています。

ブリーフ(Brief)という単語は、「短い」という意味を有しますが、どの位の短さ(回数、時間)でしょうか？

【回数】

Babor & Grant (1994)の定義

- Minimal: 1回のみ of コントクト、●Brief: 1～3回のセッション
- Moderate: 5～7回のセッション、●Intensive: 8回以上のセッション

【時間】

- Minimal: 5分以内
- Brief: 30分以内 (20～30分 of のものはbrief counsellingと呼ぶことあり)

“brief”の基準は、時間が15～30分、回数は1～4回(Cobain et al, 2011)

ブリーフ・インターベンションの概要

ブリーフ・インターベンションとは、生活習慣の行動変容を目指す短時間の行動カウンセリングである。飲酒問題の直面化は避け、「否認」などはテーマとしない。実際、「健康」をテーマとして早期介入を行うことにより、クライアントが示す否認や抵抗も比較的少ない。動機付け面接を用いるが、介入の3つのキーワードは、「共感する(empathy)」、「励ます、元気づける(empowerment)」、「誉める、労う(compliment)」である。

「そんな時は誰だって憂さ晴らししたくなりますよね」(共感)、「まだ取り組み始めたばかりですから、一度や二度は飲み過ぎてしまうこと誰にだってありますよ」(励ます)、「こんなに早く休肝日が増えるなんて素晴らしい成果です。中々できることではないですよ」(誉める)

U.S. Preventive Services Task Force Recommendations and Ratings

Screening and Behavioral Counseling Interventions in Primary Care to Reduce Alcohol Misuse.

Summary of Recommendations

The U.S. Preventive Services Task Force (USPSTF) recommends screening and behavioral counseling interventions to reduce alcohol misuse by adults, including pregnant women, in primary care settings. ***Rating: B Recommendation.***

スクリーニングとブリーフ・インターベンションは、プライマリケアで妊婦を含めた成人のアルコール乱用を減少させるのに有効と認めて実施を推奨する。

USPSTF:米国予防医療専門委員会